

2020.7.18

太平洋戦争中の対敵宣伝関係資料解説

名倉有一  
NPO 法人インテリジェンス研究所・特別研究員  
E-mail: nagura95@gmail.com

1. 名称：昭和十八年度参謀長合同における実務連絡事項（第八課主務事項）（対敵宣伝、戦場宣伝、前大戦の対敵宣伝）
2. 日付：1943（昭和18）年8月17日
3. 分量：44 ページ
4. 来歴：国立公文書館アジア歴史資料センターのホームページ Ref.C14010442700.に掲載された本資料を翻刻して脚注を付し、防衛研究所より2020年7月事前の承諾を得てNPO 法人インテリジェンス研究所ホームページに掲載するもの。
5. 履歴：大本営陸軍部が作成し昭和18年度参謀長会議で配布した資料を熊本師団参謀部が複製し、焼却を免れたもの。起草者は書かれた内容から参謀本部第2部第8課で1941年11月から1945年6月まで宣伝を担当した恒石重嗣<sup>つねいししげつぐ</sup>少佐と推測する。
6. 構成と内容

対敵宣伝ニ就テ	第一 要旨	p.3
	第二 戦場宣伝ニ就テ	p.4
	第三 対外宣伝上ニ於ケル俘虜ノ利用ニ就テ	p.8
	第四 其ノ他	p.9
俘虜ヲ利用スル対敵放送ノ件	一 利用状況	p.11
	二 反響	p.13
	三 放送内容	〃
	四 放送従事俘虜ノ取締	p.14
	五 其 他	〃
前大戦ニ於ケル対敵宣伝ノ研究	(表紙・概略)	p.15, 16
	目次	p.17
	一 「クリュー・ハウス」ノ組織	p.18
	二 宣伝ノ計画	p.19
	三 宣伝ノ方法及戦略	p.21
	四 宣伝ノ組織的实施	p.23
五 宣伝結果ノ測定	p.30	
アラカン作戦ニ於ケル戦場宣伝ノ教訓		p.35

## 7. 本資料の意味

- ・恒石は自著『心理作戦の回想』の中で、「要するにわが兵術思想は、陸海軍共武力戦偏重で、情報・補給面の考慮が少なかった。まして心理戦などと言うものは無用視される傾向が強かった。」と述べている。(p.128)
- ・そして恒石自身、参謀本部赴任時には「宣伝なんて陸大でも教えられず面食らった」(読売新聞社編. 昭和史の天皇3. 読売新聞社, 1980, p.168)
- ・したがって戦局悪化の折、会議に参加した参謀に対し本資料にどれほどの効果があったかは疑問である。
- ・しかし本資料中に「俘虜中ノ適任者ヲ選定シテ之ヲ宣伝業務上更ニ有効多量ニ利用スル如ク準備中」(p.14)とあるとおり、「ゼロ・アワー」放送ですでに成果をあげていた恒石は、同年12月2日に対米謀略放送「日の丸アワー」を開始している。
- ・それに先立ちこの放送のために借上げた駿河台の文化学院に参謀本部8課に所属する機関一伝単を制作する淡路事務所、対ソ宣伝をしていた九段事務所一を集約し、11月3日に参謀本部駿河台分室を開設している。「日の丸アワー」を参謀本部囑託として立ち上げた池田徳眞は、この施設が「対敵謀略宣伝センター」だったと著書に記している。(日の丸アワー：対米謀略放送物語. 中央公論社, 1979, p.21)
- ・恒石は、本資料で詳述している第一次大戦時の英国の宣伝秘密本部「クリュー・ハウス (クルーハウス)」の日本版を構想していたと推測する。

## 8. 恒石重嗣関連資料

Ⓐ 恒石重嗣『心理作戦の回想』東宣出版、1978年

(戦前)

Ⓑ 恒石重嗣「君を追想して」『河村俊平追想録』私家版、1937年

Ⓒ 〃 「畏友 山下君」『聚光 山下豊追想集』〃、1990年

Ⓓ 山崎正男編『陸軍士官学校』秋元書房、1969年

Ⓔ 山本武利『陸軍中野学校』筑摩書房、2017年

(戦時中)

Ⓕ 『戦前の情報機構要覧』国立国会図書館デジタルコレクション、1964年

Ⓖ 有山輝雄、西山武典編『情報局関係資料第4巻』柏書房、2000年

Ⓗ 海外放送研究グループ『NHK 戦時海外放送』原書房、1982年

Ⓘ 並河亮『もうひとつの太平洋戦争』PHP研究所、1984年

Ⓙ 北山節郎『ラジオ・トウキョウ2』田畑書店、1988年

Ⓚ 鳥居英晴『国策通信社『同盟』の興亡』共栄書房、2014年

Ⓛ 「昭和十八年度参謀長合同における実務連絡事項 (第八課主務事項)」アジア歴史資料センター Ref.C14010442700 (本資料)

Ⓜ キヤプベル・スチュアート、飯野紀元訳『英国の宣伝秘密本部 クルーハウスの活動』内外書房、1943年

- ㊦ 西村伊作『我に益あり』紀元社、1960年
- ㊧ 池田徳眞『日の丸アワー』中央公論社、1979年
- ㊨ 〃、名倉有一・和子訳『駿河台分室物語』、私家版、2015年  
(原本『*Bunka Camp Story*』私家版、1964年)
- ㊩ 名倉有一編『駿河台分室物語【資料編】』私家版、2015年
- ㊪ 多川精一『戦争のグラフィズム』平凡社、2000年
- ㊫ 防衛庁防衛研修所戦史室編『戦史叢書 32：シッタン・明号作戦』朝雲新聞社、1969年
- ㊬ 茶園義男編『本土決戦 日本内地防衛軍』不二出版社、1986年

(戦後)

- ㊭ 恒石重嗣「東京ローズ」始末記『論争』1962年10月号
- ㊮ 読売新聞社編『昭和史の天皇 3』読売新聞社、1980年
- ㊯ ドウス昌代『東京ローズ』サイマル出版会、1977年
- ㊰ 上坂冬子『特赦：東京ローズの虚像と実像』文芸春秋、1978年

以上